

豊島区の概要

●区の概要

【人 口】 284,699 人（令和 3 年 10 月 1 日現在）：人口密度全国一

【世帯数】 177,446 世帯（令和 3 年 10 月 1 日現在）

【位 置】 東京 23 区の西北部に位置する ：東経 139 度 43 分 北緯 35 度 44 分
（区の中央部）

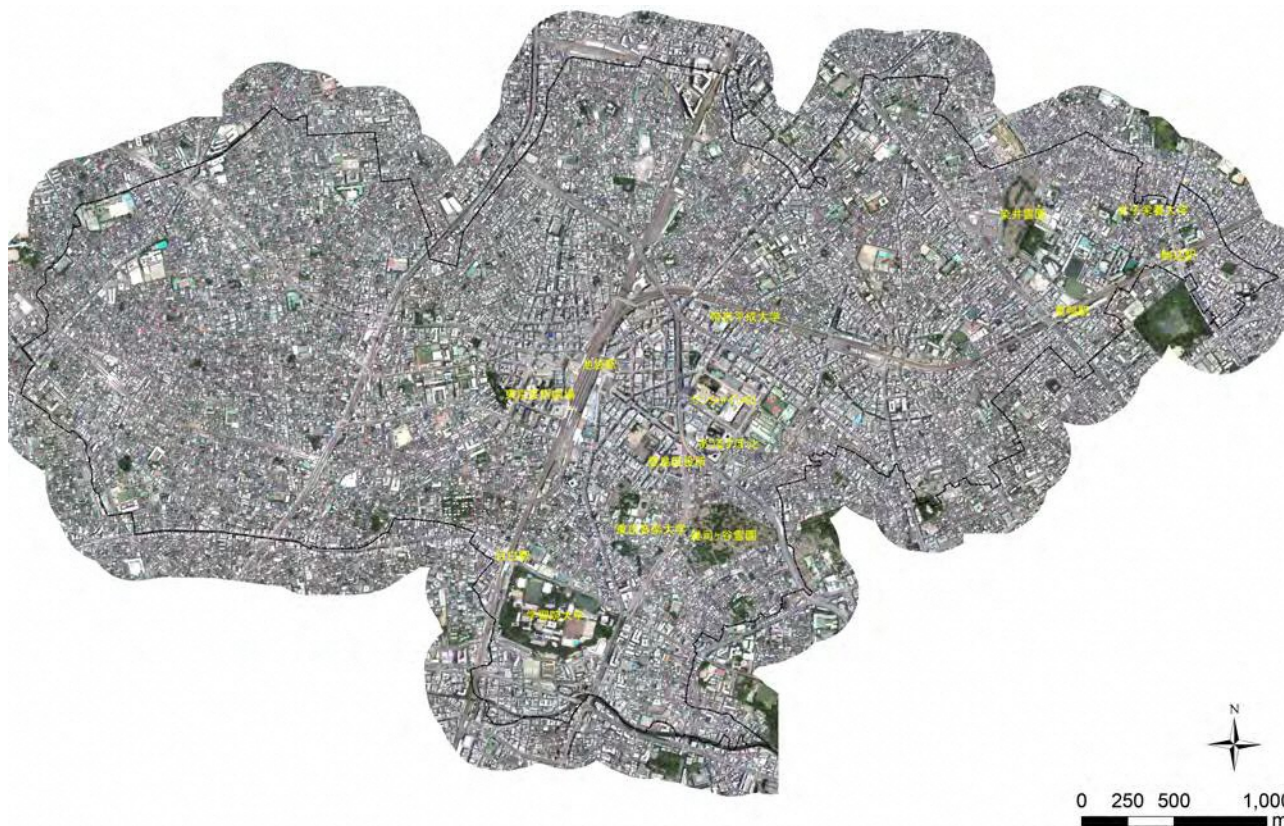


資料：豊島区 HP より

【面 積】 13.01 km²：23 区中 18 番目の広さ

東京都総面積の 0.595%、区部面積の 2.1%

【地 勢】 東西 6,720m、南北 3,660m：「鳥が羽を広げたかたち」



資料：豊島区全域の航空写真（2015 年 5 月撮影）

● 気象

- 豊島区の平均気温：15～16℃程度 年間降水量：1,300～1,800mm 程度
- 令和2年における本区の気象状況は、年平均気温 16.4℃
- 年間降水量 1,418.0mm

【表】気象状況

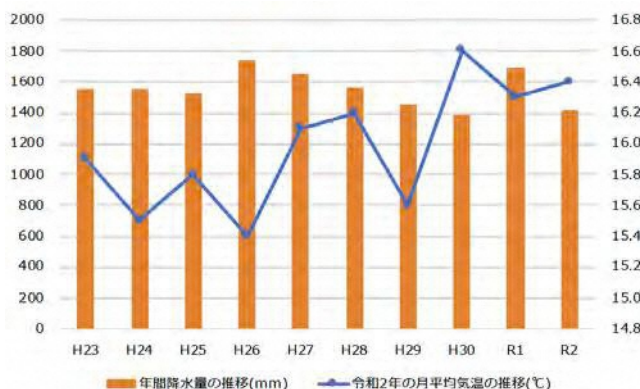
過去10年間 年ごとの値

年		気温(℃)			平均風速 (m/s)	降水量 (mm)
		日平均	日最高	日最低		
2011	平成23年	15.9	20.8	11.9	0.7	1553.5
2012	平成24年	15.5	20.2	11.7	0.8	1556.0
2013	平成25年	15.8	20.9	11.5	1.7	1527.5
2014	平成26年	15.4	20.4	11.3	1.6	1740.0
2015	平成27年	16.1	20.7	12.2	1.6	1647.0
2016	平成28年	16.2	20.9	12.2	1.6	1565.5
2017	平成29年	15.6	20.5	11.4	1.6	1452.5
2018	平成30年	16.6	21.4	12.4	1.5	1384.0
2019	令和元年	16.3	21.0	12.3	1.6	1692.0
2020	令和2年	16.4	21.1	12.4	1.4	1418.0

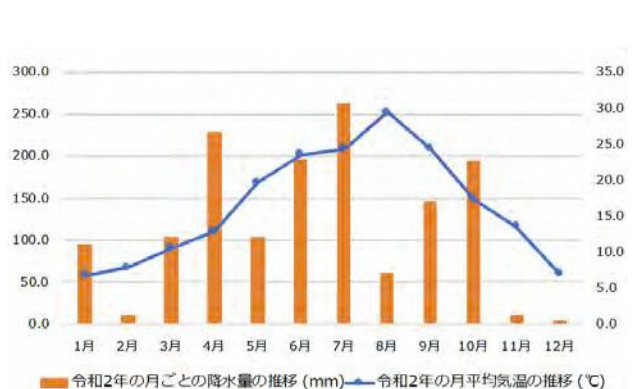
2020年 月ごとの値

月	気温(℃)			平均風速 (m/s)	降水量 (mm)
	日平均	日最高	日最低		
1月	6.7	10.7	2.7	1.7	94.5
2月	7.8	12.8	3.0	1.9	11.0
3月	10.5	15.9	5.7	2.0	103.5
4月	12.8	18.4	7.6	1.9	228.5
5月	19.6	24.7	15.3	1.3	103.0
6月	23.6	28.0	20.0	1.1	196.0
7月	24.4	28.0	21.8	1.1	264.0
8月	29.5	34.8	25.4	1.0	61.5
9月	24.4	28.3	21.3	1.3	146.0
10月	17.3	21.1	14.2	1.2	194.0
11月	13.5	18.3	9.1	1.2	11.0
12月	6.9	12.0	2.2	1.1	5.0

資料：気象庁 観測地点：練馬



【図】年平均気温及び降水量の推移



【図】令和2年の月平均気温及び降水量の推移
資料：気象庁 観測地点：練馬

●自然環境

○ 緑地の現況

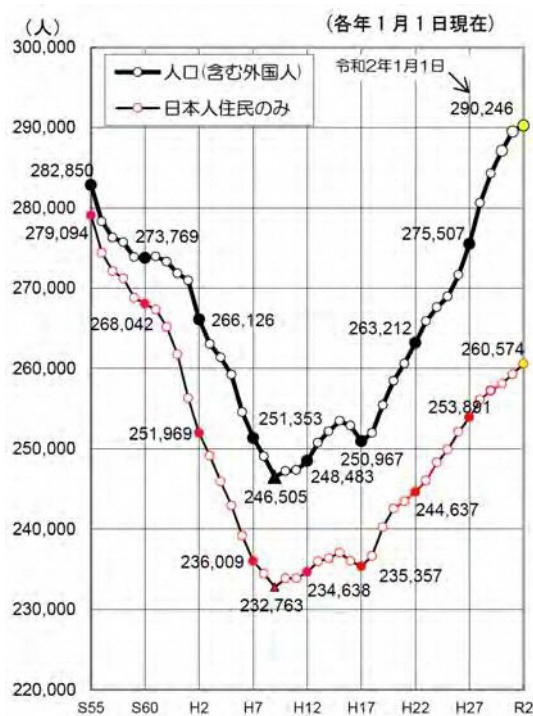
- 区内のほとんどは市街化されており、規模の大きな緑地は、学習院大学、雑司ヶ谷霊園、染井霊園などに限られる
- 学習院大学内のスダジイ林は、都内でも希少な自然林
- 区民の森（目白の森、池袋の森）なども規模は小さいが貴重な緑地・水辺となっている
- 雑司ヶ谷霊園には、小規模だが区内では貴重な草地が点在している
- 一方、住宅地を中心に小規模な緑被が多く分布しており、住宅地などの庭木も重要なみどりとなっている

○ 生きものの状況

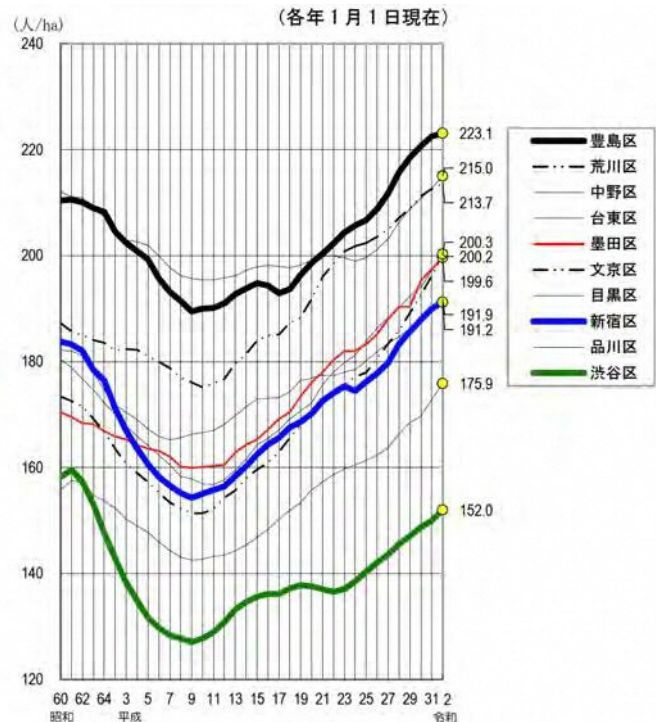
- 平成 24 年度に実施した区内の主な緑地における現地調査では、マヤラン、コカブトムシ、ツミなどの希少種も確認されている
- 学習院大学、雑司ヶ谷霊園は樹林性鳥類の生息環境として機能していると考えられている
- 昆虫類は樹林性の種が主に学習院大学で、草地性の種が主に雑司ヶ谷霊園で確認されたが、過去の文献と比較すると、雑木林や湿性環境、草地環境などに生育する種が減少しており、そうした生きものの生息・生育に適した環境も減少していることがうかがえる

●人口

- 豊島区の人口は、令和3年1月現在で約28万7千人
- 人口密度は、23区内でも高い水準で推移し、近年は中野区を上回り、令和3年1月現在で220.8人/haと全国一
- 平成9年を底に平成14年まで増加傾向が続いていた区の人口は、平成15年、平成16年の2年間一時的に減少し、平成17年には再度増加
- 今後の人口見通しは、東京が人口減少社会へと移行するのにあわせて、本区においても人口減少へと向かうと考えられる



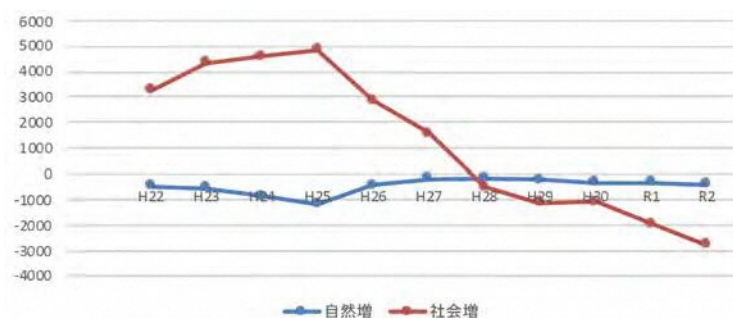
【図】人口の推移



【図】各区の人口密度の推移

資料：豊島区未来戦略推進プラン 2021 より

- 豊島区の人口動態をみると自然動態では出生が死亡を下回る自然減
- 社会動態では、平成23年から平成25年までは毎年4,000人以上が増加。以降転出が転入を上回る社会減となっており令和2年では約2,800人の社会減

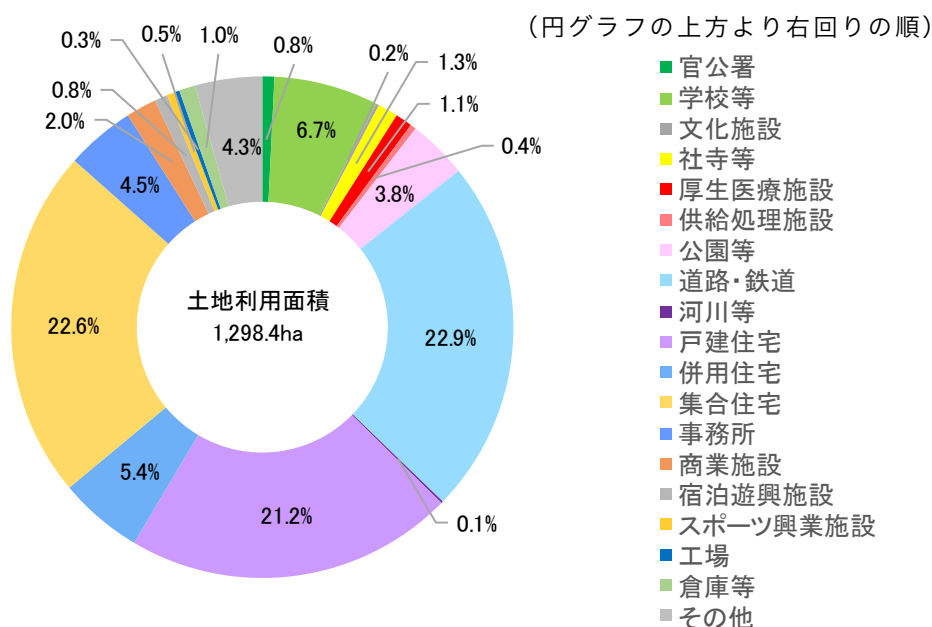


【図】人口動態の推移

資料：住民基本台帳より作成

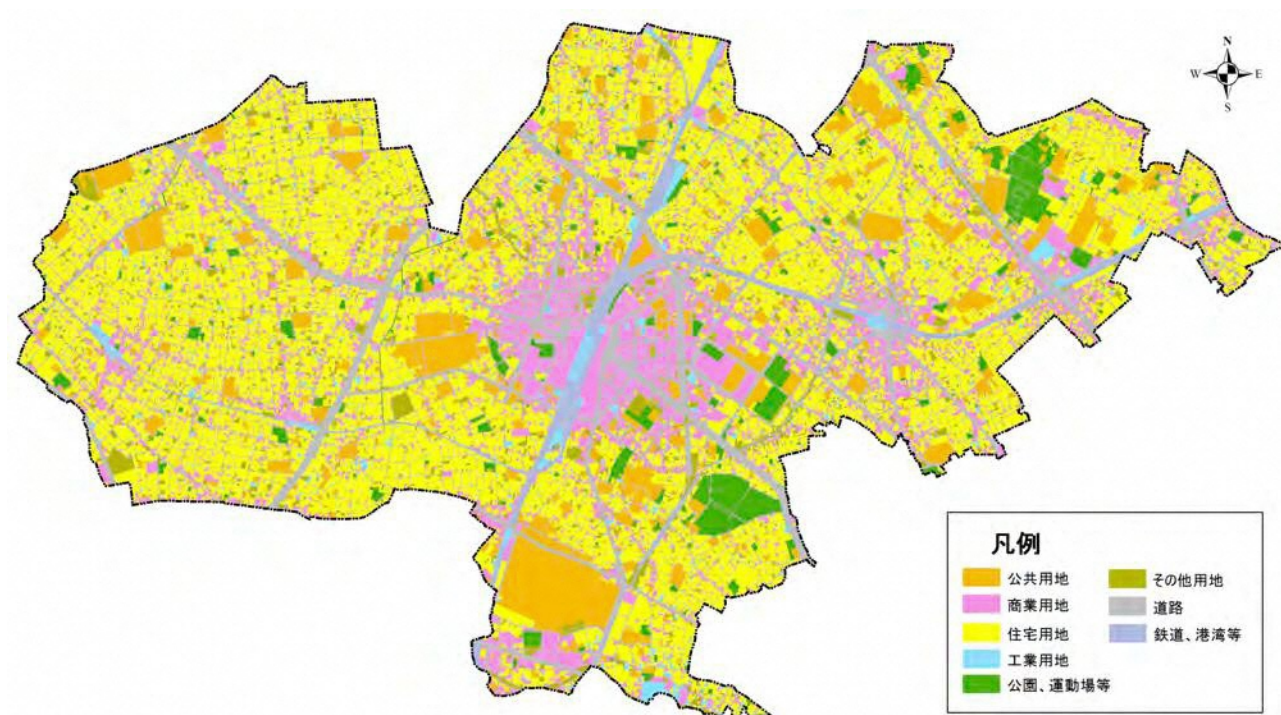
●土地利用

- 豊島区の総面積に占める土地利用面積の構成割合は、公共系が 37.4%、住宅系が 49.2%、商業系が 7.7%、工業系が 1.4%
- 商業施設や事務所は池袋駅を中心とした副都心区域に多く、鉄道駅周辺、幹線道路沿道及び旧街道沿いにも分布し複合的な土地利用が多くを占めているのが特徴



【図】 総面積の土地利用面積の構成割合

資料：豊島区緑被現況調査（R2.3）より



【図】 土地利用現況

資料：平成 23 年度土地利用現況調査より作成

●景観

都市化が進んでいる中でも、染井霊園及び雑司ヶ谷霊園の周辺をはじめ多くの寺社があるほか、文化財や都電荒川線などがあり、歴史と文化、景観などの資源が分布している

- 人為的な影響が少なく自然状態を保つ樹林は、学習院大学の西側と南側の斜面に唯一残る。また、東部地域や神田川付近の高低差がある南部地域では坂道が多く特徴的な景観となっている
- また、池袋駅周辺は、東京北西部のターミナル拠点として区内最大の商業地を形成し、大規模百貨店や東京芸術劇場が立地し、サンシャインシティとその周辺までの広域にわたって、商業、業務、文化・芸術、情報などの多彩な都市機能が集積する副都心を形成している
- これらの商業施設や公共施設などを結ぶ主要な通りは、買い物や遊興などで訪れた多くの人々が行き交い、にぎわいを見せおり、その中でも駅前のグリーン大通りや劇場通りは、区を代表する並木道として親しまれている



【図】 地域資源分布

●歴史

○ 区名の由来・区のおいたち

- 豊島区は、昭和 7（1932）年 10 月、東京市郡合併により近郊 82 カ町村が東京市に編入され、新たに 20 区が設けられた際に誕生した
- それまで北豊島郡下にあった巣鴨町・西巣鴨町・長崎町・高田町の 4 つの町が統合されたもの
- 区名については、4 町協議の結果、北豊島郡がなくなることから、この郡の中心にあたるこの区にその由緒ある名前を残すことが決められ「豊島区」が誕生した
- 「豊島」の地名は、古代律令制下の武蔵国の郡名



資料：豊島区 HP より

○ 近世（江戸時代）

- 江戸時代は 7 か村、人口は約 3,000 人前後
- 下高田・雑司谷・巣鴨・上駒込の各村には、大名の下屋敷や抱屋敷が多く見られ、巣鴨には御薬園、雑司谷には御鷹方組屋敷、御犬飼小屋があったが、その他はほとんどが農地
- 水田は神田川流域の低地、谷端川・弦巻川・谷戸川沿いに多少見られたが、ほとんどが畑地で、江戸市中へ出荷する野菜の栽培が盛んであった（駒込なす・巣鴨だいこん・巣鴨こかぶ・滝野川ごぼう・長崎にんじん）
- 駒込は庭木栽培に向き、多くの植木屋が軒を並べ、特につつじ、さつきの栽培が有名で、品種改良も盛んに行われ一大園芸都市をなしていた
- 日本を代表する桜の品種「ソメイヨシノ」も駒込（染井）の地が発祥
- 巣鴨も、菊づくりで知られ、特に趣向を凝らした菊の形作りが評判を呼び、江戸市中より菊見の人で賑わう
- 中仙道など街道沿いに町場地域がつくられはじめる



「染井の植木屋」 資料：既刊『豊島区史』（豊島区史編纂委員会/編纂 東京都豊島区/発行）より

○ 近代（明治～大正）

- 明治元（1868）年 7 月、江戸は東京と改称され中心部に東京府がおかれる
- 武蔵野の原野が広がり農家が散在する光景は江戸末期と変わりがなく、わずかに中山道に沿った巣鴨と、雑司が谷の鬼子母神が賑わいを見せる



「鬼子母神」 資料：豊島区 HP より

- 明治 7 年、雑司ヶ谷霊園、染井霊園が開園
- 明治 18 年 3 月、日本鉄道の赤羽-品川間が開通し、目白駅が開業して以来、池袋-田端間の開通と大塚・巣鴨・池袋駅の開業（明治 36 年）と進み、山手線の発達とともに移住者が増える
- 明治 40 年代に入ると、豊島師範学校の開校、学習院、大正、立教大学の区内への移転が相次ぎ、次第に学生の街としての姿を整えていく
- 大正年間に入ると、東上鉄道（大正 3 年）、武蔵野鉄道（同 4 年）が開通し、池袋は交通の重要拠点となり、関東大震災（大正 12 年）後、本格的な市街地化が進み、区内人口は 20 万をこえるほどに増加

○ 現代（昭和～令和）

- 昭和 7（1932）年 10 月、4 町が合併し、豊島区が誕生
- 昭和 16（1941）年 12 月、日本は太平洋戦争に突入 戦後、自治権拡充の動きの中で、副都心池袋を中心に大きく発展した



「池袋のまち」 資料：豊島区 HP より

●文化資源

- 区内には、3つの国指定文化財をはじめとする、それぞれの地域に根付いた特色ある文化資源が数多くあり、地域の歴史を継承する祭事・催事などが行われ、そうした地域固有の文化を活用した新たなまちづくりも各地で展開され始めている
- 劇場・映画館などの文化拠点も数多くあり、近年、池袋を中心に、マンガ・アニメ関連施設が続々と集積している

○ 国指定重要文化材



■豊島長崎の富士塚



■自由学園明日館



■法明寺鬼子母神堂

資料：豊島区広報パンフレットより

○ 豊島区の文化資源



資料：豊島区 HP（豊島区国際アート・カルチャー都市構想）より

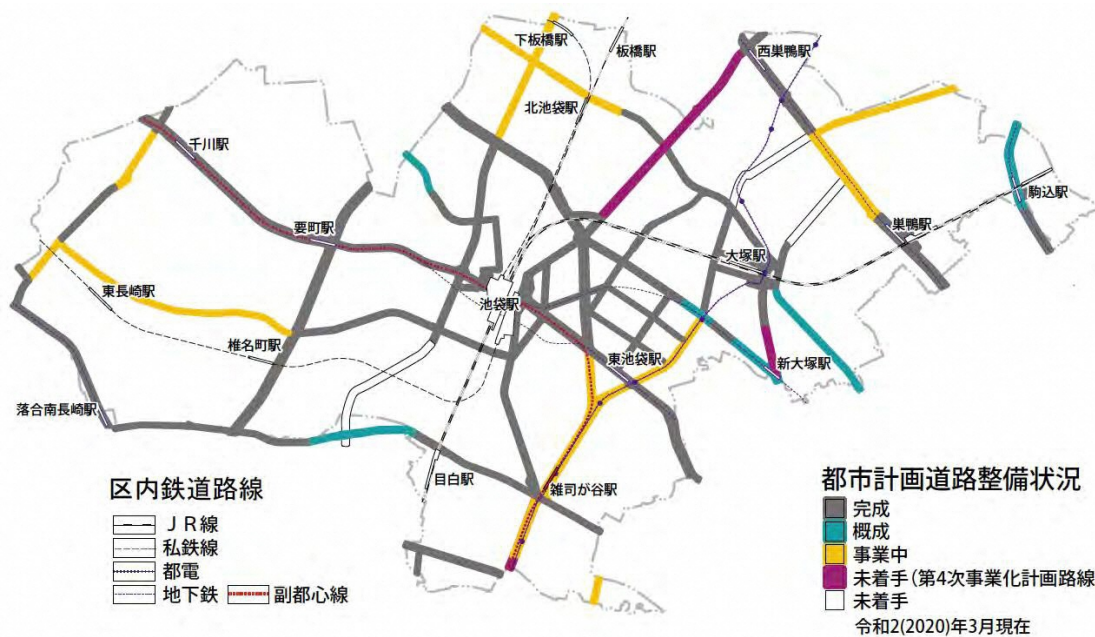
● 交通環境

○ 道路

- 幹線道路は、現在事業中の路線が完成すると、放射線で9割超、環状線では約8割が整備される
- 池袋副都心アプローチ道路の事業化や狭あい道路拡幅整備事業が進んでいる

○ 鐵道

- 区内には、JR 東日本（山手線ほか 5 駅）、東武鉄道（東部東上線 3 駅）、西武鉄道（西武池袋線 3 駅）、東京メトロ（丸ノ内線・有楽町線・副都心線・南北線 9 駅）、都営地下鉄（三田線・大江戸線 3 駅）がある
- 東京メトロ副都心線が開通し、目白駅、大塚駅、東長崎駅及び椎名町駅において、自由通路や駅前広場の整備など駅周辺整備が進展している



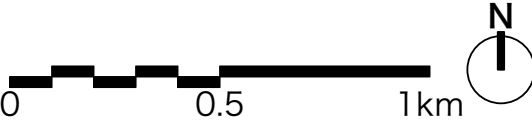
資料：豊島区都市づくりビジョン改定版（R3.3）より

豊島区 緑の現況図



凡例

- 樹林地・草地
- 屋上緑化
- 水面



※豊島区緑被現況調査報告書（令和2年3月）緑被地等分布図をもとに作成